

ひらがな

れんしゅうちょう

つまずきを防ぎ、学び取る力を育むための 指導の手引き

認定NPO法人
リヴォルヴ学校教育研究所



◆ 書く練習の手順 ◆

- ① 基本形を絵の中で印象づけ
「す」を「十」、それから「し」のように書く子もいます。まずは絵の中の点線を指でなぞって、動きをとらえましょう。
- ② 耳からのヒントも生かす
「す」は「横線、たてくる」、「も」は「しっぽのし、横線2本」と書き順を声に出しながら、机の上などに指で書く練習をします。
- ③ 白抜き文字を使って
②を繰り返したら、鉛筆で白抜き文字をなぞってみましょう。
- ④ マスの中に書く
ここでも、書き順を声に出しながら練習すると効果的です。必要に応じて縦横、斜めに補助線を引いてみましょう。

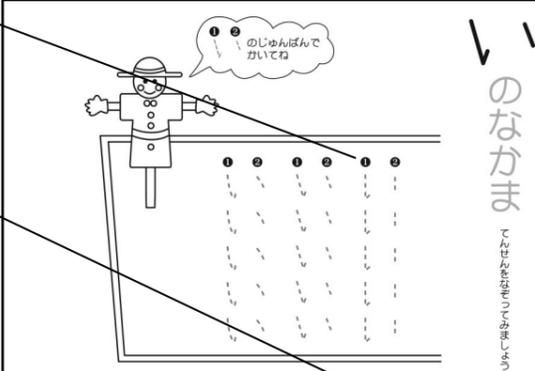
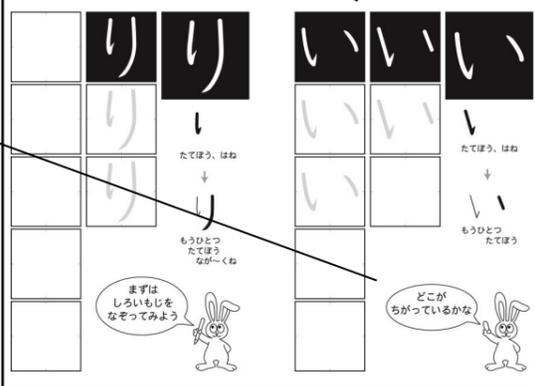
- ◇ その他の練習法：さわった感覚で覚える
 - 目を閉じて、表面がざらざらしたものの上に指で文字を書き、触觉を生かして鉛筆の動き、文字形をとらえます。
- ◇ その他の練習法：文字当てゲームを楽しむ
 - 「し」「も」などと書いたカードを机の上に置き、「どっちを書いたか当ててごらん」と、背中や机の上、または宙に指で大きく書きます。必要に応じて耳からのヒントも加えます。
 - まずは2〜3枚のカードの中から、正解を選ばせます。慣れたら、その文字を「書いてごらん」とします。子どもから大人にも出題させてみましょう。

「い」と「こ」を混同する子もいます。「たて棒2本」からステップを踏んで練習しましょう。

わずかな傾きや丸みを書き表すのは簡単なことではありません。「い」が「たて棒2本」になっても、まずは「できるようになったこと」を認め、ほめることから始めましょう。

手取り足取りでは「気づき、学び取る力」を育むことはできません。ゆっくりと試行錯誤を繰り返す権利を尊重し、自ら違いを発見できるようにしましょう。

のなかま
ひらがなを学ぶための手引き

◆ 文字の手引き ◆

- ① く のなかま
左右を逆にしてしまうときは、「顔はどっち向きだった？」と声をかけてみましょう。
- ② い のなかま
傾合いを見ながら「どうしたらもっとかっこよくなる？」と声をかけ、少しずつ文字形が整えられるようにしましょう。
- ③ こ のなかま
L字に広げた右手の人差し指と親指を練習帳に当てて、「くるっくるっ」とコマを回す様子を示してみましょう。
- ④ し のなかま
「も」の一画目は「くるっとしっぽ」とする方法もあります。

「ジェットコースターくるん」などと言いながら、点線を指でなぞり文字の基本形を捉えます。

「し」を「J」のように書く子には「犬はどっち向きだった？」と声をかけましょう。

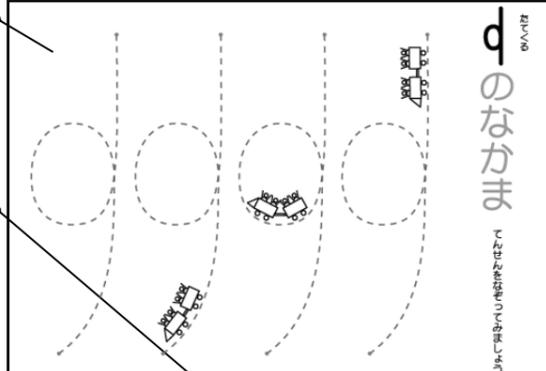
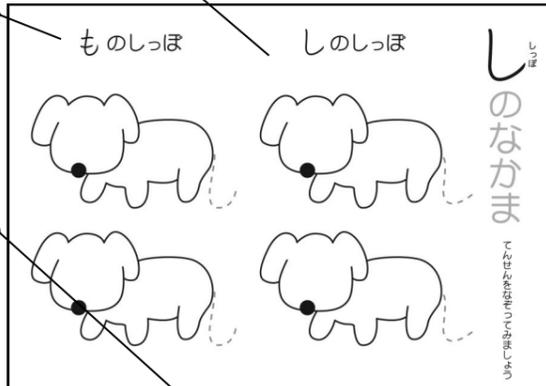
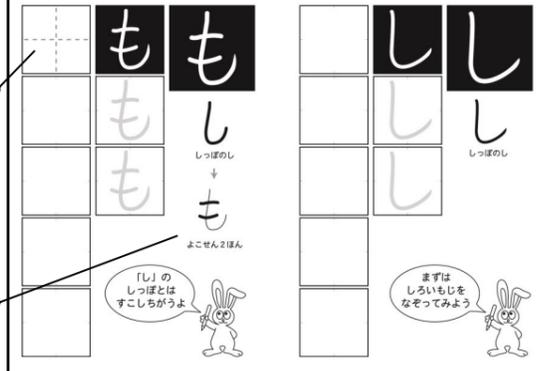
「も」は「し」と「しっぽ」の形が少し異なります。「どこがどう違う」などと声をかけ、気づきを促しましょう。

指で書く練習を十分に繰り返したら、今度はお手本を何度もなぞってみましょう。白抜き文字なら、はみ出しても目立ちません。

補助線があったほうがよい子もいれば、そうでない子もいます。必要によって、書き始めの点も加えてみましょう。

書き順はリズムカルに読み上げましょう。

のなかま
ひらがなを学ぶための手引き

- ⑤ ぢ のなかま
「む」はとても難しい文字です。場合によっては、後回しにするなどしましょう。2画目は「(0)の反対曲がり」とする方法もあります。
- ⑥ の のなかま
「の」と「め」ではどこが違うか、子ども達自身に問いかけてみましょう。「でばって、くる」などの言い方も考えられます。
- ⑦ っ のなかま
「か」はバランスが取りにくい文字の1つです。必要に応じてステップを踏み、少しずつ文字形が整えられるようにしましょう。
- ⑧ よ のなかま
各文字の「どこがどう違うかな？」と、たずねてみましょう。
- ⑨ つ のなかま
それぞれの「つ」の形の違いを、自分で気づけるようにしましょう。
- ⑩ ぶ のなかま
「ふ」を「う」に「てんてん」のように覚える子もいます。風船がしぼんでいく様子をイメージさせましょう。
- ⑪ へ のなかま
「ひ」は「よこせん、穴ぼこ書いて」とするのも方法です。
- ⑫ こ のなかま
鏡文字を防ぐため、「レモン」の形を示すときは、いつも子どもと同じ向きに座って左手を使うようにしましょう。
- ⑬ ろ ぎざ のなかま
「ろ、る」「わ、れ、ね」など、難しい文字が含まれます。組み合わせる文字を練習してから取りかかきましょう。
- ⑭ ん のなかま
「ん」の「ひらひら」は最後を「らー」と音を上げて、「え」は「ひらひら(ゎ)」と音を下げないようにしましょう。
- ⑮ 十 のなかま
「お」「さ」「た」の「十」の部分の傾きに注目させましょう。

- ✓ 50音順にこだわらず、取り組みやすい文字から練習しましょう。
- ✓ 高すぎる目標を設定して意欲を損なわないように、鉛筆で書くことが難しい場合は、指で書く練習をゆっくり行いましょう。

◆ 考えて読む力を養う ◆

「いぬ」の「い」を強く(高く)読み、「犬」と結びつけられない子がいます。なぜそのようなことになるのか、次の文を音読してみてください。

せんきよくのせんきよくにおうじて
せんきよくせんきよくしてください

正しい読み方は
次のページに →

4つの「せんきよく」は意味も異なれば発音の仕方(音の高さ)も異なります。ここからわかるのは、ひらがなを覚えてもそれだけでは読んで理解することはできないということです。「くつした」を「つくした」としないためには一文字ずつ順番に読むことも大切ですが、それだけでは読みが遅くなったりもします。「(桃太郎は)おにがしまにいった」を「鬼が、島に行った」ではなく「鬼ヶ島に行った」と読むためには、場面などから推測を働かせ、情報を統合して読む力が必要になります。

「秋：アキ」の「キ」と「キノコ」の「キ」では音の高さが異なります。手を上下させたり、立ったり座ったりするなど、体を使って音の上下を確かめながら読んでみましょう。

「川、ワニ、二本、日本、本、本屋、矢」など絵も参考にしながらできるだけたくさんのお話をさがしましょう。

絵を描いて「これを探してみよう」としたり、「お殿様が住んでいるのは？」とたずねるなど、必要に応じて絵やヒントを加えてみましょう。

なにがかかっているかな

ゆのみ	ありする	たいふう	あきのこうえん	かわにほんや
くるみ	めんち	とうふ		

すなお	けい	いぬ	し
おかし	ら	ねま	き
はよろ	い	わにく	こめ
なし	い		す

☆ 場面を考えながら読む

- 「あきのこうえん」(左下: なにかかっているかな)を読ませる際には、絵を先に見せ「ここはどこ? 春、夏?」と問いかけてみましょう。
- 濁音の練習では「カラスはカアカア、アヒルは?」と問いかけ、自分で考えて読ませてみましょう。

☆ 音についての気づきを促す

- 「秋：アキ」の「キ」と「キノコ」の「キ」では音の高さが異なります。背伸びをしたり座ったりするなど、体を使って音の高低、強弱を確かめながら読んでみましょう。
- 「キコキコ」に比べ「ギコギコ」からは「重々しさ」や「力」が感じられます。さらに重々しく「ギコギコ」と板を切る様子を見せるなどしながら、音から受ける印象の違いを確認しましょう。

【正しい読み方】 選挙区の戦局に応じて千曲選曲してください

「カラスはカアカア、アヒルは?」と問いかけ、自ら考えて読む力を養いましょう。

「キコキコの三輪車とギコギコの三輪車だったら、どっちがいい?」「どうして?」と問いかけてみましょう。音に対する気づきは、外国語の学習にもつながります。

準拠の学習ソフト「ひらがなの森」では、画像を見ながらリズムに乗せて、濁音、半濁音の練習をすることもできます。

まとめとして、自ら濁点をふり、音の違いを確認しましょう。

かぎぐげー
なんてよむかな

「」が「」のほ
どつちかな?

() ()	() ()
か か	が か
き き	らす らす

◆ 最初の一步だからこそ ◆

「ひらがな、書けるよ」と胸を張る子ども達の姿を見ていると、それは文字を習得するという事以上の意味をもっていると感じさせられます。しかし「ひらがな」を覚えることは、大人が思うほど簡単なことではなく、ここでつまずき自信を失ってしまう子もいます。

☆ 到達目標は プラス1

プロスポーツ選手のまねをしている子がいたら、多くの人は「基本から」と言います。なのになぜ「ひらがな」は、最初から「正しく美しく」となるのでしょうか。高すぎる目標を設定して意欲をそいでしまわぬよう、その子が今いるところから一歩先に目標を定めましょう。

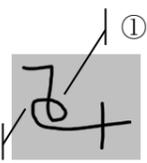
☆ 一人一人に異なる育ち・学びを大切に

偉人と呼ばれる人の中にも、読み書きを苦手とした人が少なからずいます。早ければいいということではありません。

手とり足とりは、考える機会を奪うことにもなります。「い」が「縦棒が2本」になったとしても、「どうしたらもっとかっこよくなる?」と問い、自分で発見し、工夫できるようにしましょう。

☆ 試行錯誤の権利を尊重する

右の「み」は、それまで左右を反対にしていた子が書いたものです。最初は正しく入ったものの、途中でいつもの方向に曲がり(①)、間違いに気づき(②)、正しい方向に戻っています。



これを頭ごなしに否定してしまうか、それとも「どうしてここ(②の部分)に戻ったの?」とたずね、その気づきを認めるかによって、その後の学びは大きく違ってきます。

◆ こんなときには ◆

☆ 文字の形が思い浮かばないときは

耳からのヒントに強い子もいれば、目からのヒントに強い子もいます。得意を生かしながら、ヒントを組み合わせさせてみましょう。

- 「あしくる」「しっぽ」などのキーワードを言ってみる
- 「よこせん、たてくる」などと書き順を言ってみる
- 「あしくる」「しっぽ」などの文字の一部を書いて見せる
- 文字を空中または紙の上に指でゆっくり大きく書いて見せる

☆ 「し」を「J」などとしたときは

- 「(本冊の)犬はどっちを向いていた?」などと声をかけてみる
- 「みじかくよこせん、あしくる」と書き順を声に出しながら、背中などに書くのと同時に、指で机の上に再現させてみる

☆ 形がうまく取れないときは

- 手や指で大きく書く練習をする
机の上や宙に大きく書かせます。「上手に書けてたよ」とたくさんほめ、自信をもたせるようにしましょう。
- ステップを踏んで練習してみる
「とめ、はね」など一度にたくさん情報を与えると混乱のもととなります。必要に応じて文字形を単純化し、ステップを踏みましょう。

☆ それでもなかなか書けないときは

- 読み聞かせやしりとりなどの言葉遊びをする
文字にふれる機会が少なくなると、語いも少なくなりがちです。様々な言葉遊びは「音についての気づき」も促します。
- ひらがなカードを使って遊ぶ
「た」「こ」「い」「と」などのカードを用意し、「たこ」「いと」などできるだけたくさん語を作ってみます。

© ONOMURA Satoshi 2016

リヴォルヴ学校教育研究所とは

不登校や学習につまずきがちな子ども達の支援に取り組むNPO法人です。実践の成果をまとめた教材は、全国の学校等で採用されています。教材販売によって得られた収益は、子育て・育ち環境の充実のために生かしています。

〒305-0047 茨城県つくば市千現1-13-3 502号
TEL 029-856-8143 FAX 029-896-4035



ひらがなえほん



学習ソフト
ひらがなの森



英単語カレンダー
入門・初・中級合冊版



ABC英語
れんしゅうちょう